

まるわかり / 地域防災拠点

大地震などが発生して自宅が壊れるなど、自宅での生活が困難になったとき、皆さんはどこで避難生活を送ればよいか知っていますか？
横浜市では、身近な市立の小・中学校などを地域防災拠点に指定し、防災備蓄庫の設置、防災資機材・食料などの備蓄を行っています。
今回の特集では、地域防災拠点とは、どういう場所なのか？ 何があるのか？ など、中身についてお伝えします。 ☎防災担当 ☎341-1225 ☎241-1151



Q & A よくある質問

Q 地域防災拠点は、いつ開設されるの？
A 自宅の近くの地域防災拠点はどこにあるの？
Q 市内で1か所でも、震度5以上の地震を観測した場合に開設します。地域防災拠点については、区ホームページや区民生活マップなどで確認することができます。また、年1回、訓練を実施しているため、近くの地域防災拠点の訓練に参加してみましょう。

Q 避難生活で大切なことは？
A 地域防災拠点は一時的な生活場所です、完璧な居住環境ではありません。避難生活を送るにあたっては、ルールとマナーを守ることが大切です。避難者も可能な範囲で運営に協力し、お互いに助け合いながら生活しましょう。

Q ペットと一緒に避難する場合の注意点は？
A 避難者の中には、動物が苦手な人や動物アレルギーの人もいます。臭い・鳴き声、抜け毛などについて普段以上に周囲に配慮することが大切です。
【同行避難する前の準備】
 飼主の明示(鑑札や名札)
 キャリーバッグやケージに入れて連れていく
 ペット用の避難用品(ペットフード、トイレ用品など)を持っていく

Q 在宅避難に必要なものは？
A 災害発生直後は、食料や日用品の購入が難しくなります。家族構成を考えて、各家庭に必要な備蓄をしましょう。
【主な備蓄品】
 飲料水 携帯ラジオ
 食料品 カセットコンロ・ガスボンベ
 トイレパック 携帯電話用充電電池
 懐中電灯 常備薬 など

地震発生

その場に合った身の安全を図ってください。

地域防災拠点は、皆さんで運営する場所です。地域の皆さんの主体的な協力が必要です。

在宅避難

自宅の被害が少なく、居住できる状況であれば、在宅避難をしましょう。慣れない避難生活では、体調を崩す人もいます。在宅避難に備えて、各家庭で最低3日分の備蓄をしておきましょう。

災害時の医療体制について確認しましょう。詳細は7ページへ

いっとき避難場所

公園や空き地など避難の必要があるときは、町内会など地域で決めている避難場所に行きましょう。

火災が広がっている場合

広域避難場所

地震による延焼火災の放射熱や煙から身を守るために一時的に避難する場所です。

地域防災拠点ミナミク小学校

避難所 体育館など

移動式炊飯器

ガスかまどセット

防災備蓄庫

クラッカー、保存パン、水缶、トイレパック、仮設トイレ、毛布、移動式炊飯器、発電機など、避難生活を送るための最低限の資機材が備蓄されています。

応急給水装置

手押しポンプ

仮設トイレ

地域防災拠点へ行ってからの流れ

1 避難者カードの記入

避難者の状況を把握するため、避難者カードを記入します。

2 家族などの安否確認

避難所に家族などが避難しているか確認しましょう。

3 生活基盤の形成

中長期的な避難生活に向けた準備(避難スペースの区割り、仮設トイレの組み立てなど)を、避難者同士で協力して行います。

4 避難所の運営

炊き出しや清掃など、避難者の皆さんで協力して行いましょう。

以下は広告スペースです。「広報よこほま」に掲載されている内容とは関係ありません。

以下は広告スペースです。「広報よこほま」に掲載されている内容とは関係ありません。